

# 「大里小・中学校の『弓矢踊り・面踊り』伝承の取組」

1 学校名 三島村立大里小・中学校

2 児童・生徒数 小学生9名・中学生6名

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

7月12日（火）	3・4校時	大里小・中学校集会室
9月2日（金）	5校時	大里小・中学校校庭
9月27日（火）	3校時	大里小・中学校校庭
10月6日（木）	1・2校時	大里地区健康広場
10月8日（土）	3校時	大里地区健康広場

### (2) 発表の日時・場所

10月10日（月）大里地区・大里小・中学校大運動会

（大里地区健康広場）

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

(1) 名称 弓矢踊り，面踊り

### (2) 由来

#### ア 弓矢踊り

1584年肥前の太守，龍造寺隆信に攻められた有馬氏を助けるために，島津義弘の弟家久は島原に出陣し，肥前の軍勢を撃破した。この時の家久の子，豊久は15歳で参戦し，見事な若武者ぶりを披露した。この弓矢踊りは，豊久の勇猛果敢な戦いの様子を表したものである。

#### イ 面踊り

五穀豊穰と子孫繁栄，生産を祈る踊りで，手には，すりこ木としゃもじを，腰にはひょうたんを持ち，生産を意味している。

### (3) 構成等

#### ア 弓矢踊り

最初はテンポの遅い曲調で，烏帽子をかぶった島津軍と兜をかぶった龍造寺軍の2列に別れ，鉦と太鼓の音に乗って入場してくる。各列先頭の2人が島津豊久役と龍造寺隆信役となり，お互いの口上をあげた後，地唄手（ジュウテー）の歌に合わせて，鉦や太鼓で調子を取りながら優美に踊る。弓を左手に持ち，背中に矢筒を背負い，歌に合わせて弓を左右に大きく振りながら前後に大きく動き，その後，矢筒より矢を取り出し，弓につがえ，弓を射る様子を表現している。途中で，テンポが速くなり，鉦と太鼓が両軍の間を片足跳びで移動すると，両軍の踊りも歌と共に素早くなってくる。

#### イ 面踊り

思い思いのボロをまとい，ビロウの葉，シュロの皮，ガジュマルのヒゲ根等で身を飾り，腰にはヒョウタンを下げ，顔には鬼，おかめ，

ひょっとこ、かっぱ等の異相の面をかぶり、右手には「メシゲ」、左手に「すりこ木」を持った「メン」たちが、会場の右手と左手の二組に分かれ、「ヒョウ、ヒョウ」という奇抜なかけ声を出しながら出てきて踊る。地唄手（ジュウテー）の人たちの歌に合わせながら、「メシゲ」と「すりこ木」を頭上で軽くたたき合いながら、片足跳びをしながら地面に座った「メン」の前後を移動する。「メシゲ」と「すりこ木」で軽く両脇に触れて、次の「メン」に受け継ぎ交代する。

## 5 保存会や地域との連携の具体

地唄手（ジュウテー）の方々3人を、「ふるさと先生」として学校に来ていただき、踊り方等のご指導を依頼している。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 小学校と中学校の弓矢踊りと面踊りの練習の時間を合わせた。
- (2) 小中合同の練習時、「ふるさと先生」を招聘し、指導を行っていただいた。
- (3) 弓矢踊りで使う弓・矢と兜を修理した。（弓の装飾を新しく行った。）
- (4) 運動会に向けての最後の練習で、実際の衣装を着けて練習できるように保護者に着付けを文章で依頼した。（踊り揃え）

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【弓矢踊り】練習 運動会当日 【面踊り】練習 運動会当日

## 8 感想・意見

### <教職員>

- 地域の地唄手の方々が、学校応援団として来校して指導をしていただけたことが本当にありがたい。
- 伝え続ける活動は、人から人への教え合いが基本となる。地区との触れ合いも生まれ達成感もあります。少人数ではあるが絶やさないとと思う。

### <地域の方々>

- 小・中学生による郷土芸能では、地元の子どもだけでなく留学生として来た子どもたちにとっても、大人になった時、「昔、運動会で踊ったなあ。」と懐かしく思い出す時が必ずやってくる、そんな印象を受けた。
- 小学1年生も一生懸命踊っている姿がすばらしかった。毎年楽しみにしてる。